

しかし、前に申しました女の兒は別に誰からも今申した様な取扱を受けて居りません。つまり其原因は取扱方から來たものではございません。全く、知らず々家庭の空氣に化せられたのでございます。

其家庭の人々は皆其の兒を愛して居ります。ですから一目見ますと、大へん幸福な様でございすが家の人々がすべて、此の兒に對して一致して居らぬといふことは、この兒に取つて大なる不幸でございします。即ち母は父の禁して置きました玩具をひそかに買つて與へまして「これはないしよですよ」といつて聞かせます。また祖母は子供を愛するあまりに其子のあやまちを掩ひかくしてやります。從て兒はないしよといふらを見たり聞いたり、また私語を聞いたりする場合は澤山あり

ます。其度毎に子供はこれによつて、何を學ぶでございませうか。まことに氣の毒なのは軟弱な且つ白紙の様な兒でありまして、知らぬまに、いろくわるい方に導びかれます。

この兒の家の人は決してこの兒をかげひなたのある兒にしようとして、望んでは居りますまい。そうでございしますのに、この兒がかげひなたをする様になつたのは、どういふわけでございませうか。全く家人から悪い影響をうけたのでございませう。ほんとは、ないしよといふことは大に氣をつけなければならぬことゝをひす。

### 傳染病

醫學士

長瀬復三郎

### 第一 急性發疹症

これは急に全身に或は皮膚に局限して發疹し病氣の模様の起るもので其中著しきものは麻疹、猩紅熱、風疹、水痘、痘瘡、發疹ちぶすなどがあります

(1) 麻疹

麻疹は多く春夏秋に流行して、殊に二年以上六年以上の兒に多くあります、この病氣の原因及病原菌は未だ分りませんが、其傳染の道は多く器具衣服、患者に接觸することなどに由つて實に猛烈に傳染し、東京其他の都府には殆どたゆることなく散在して居ります、而して一度これにかゝれば再かゝることはありませせん即ち麻疹の免疫を得らるゝのであります、又小兒期に於ては一度はこれにかゝるものであります。

病狀 病原菌が入つても九日乃至十日間は潜伏

して現はれませせん、九日乃至十日を経て、初めて小兒は遊びを好まぬ様になり、元氣がなく又食事が進まず、鼻かたなる、氣管支かたる等が起つて体温が急に三十八九度に昇ります、この有様が三四日もついで發疹期になり、先づ最初に顔、帽針の頭程のものから櫻實核大位の平坦なる鮮紅色の發疹がありまして、二十四時間程の間に全身に擴がります、而して同時に眼には結膜炎を起します、この發した疹を見ますと點々の間には皮膚の部分に明にわかつて居ります、かくて体温が四十度位に上り三日め位になつて段々体温は下り疹もなくなり、糠の様になりて皮がとれます（これを落屑といひます）故に發病後二週間程でよくなりま

す。  
この病氣にはかたる性肺炎、氣管支かたる、喉

頭かたる等を併發します。これは其麻疹の流行する時期又は其兒の身体によります。

注意 麻疹の症状は前に申した様でありますから顔から全身にわたつて發疹するとか、又發熱咳嗽などがありましたならば早速他の兒と隔離し、又消毒して其傳染を防がなければなりません、又其兒は温くして外氣に觸れぬ様にし若し又非常の高熱で痙攣する様なとがありましたならば、水又は氷で頭を冷すことが必要であります、元來麻疹は傳染は猛烈でありますが症其ものは恐るべきものではありませんが、しかし恐るべき合併症の出ぬ様に注意しなければなりません、又大人でも傳染することがあつて若し傳染すれば小兒よりも症状重く危険なる有様を呈するものであります、常に小兒を取扱ふ人は注意しなければなりません

### (?) 猩紅熱

猩紅熱は麻疹とよく似て居りますが、稍々異なる所があります、重に秋と冬に多く三年乃至八年の兒がかゝります。而して皮膚に疵のある兒はかゝり易素因を持って居ります、この病毒は頑固に嚴寒に打ち勝て大都市には常に月に一二名の患者があります、而して麻疹よりも激烈なる病毒で衣服、食物器具、患者に直接することなどが媒介となつて傳染します、但し麻疹と同じく一度なれば二度とかゝることはありません、

症状 兒は初めに不活潑になり食氣進まず咽痛、頭痛嘔吐等を起しこの有様か三日程つゝ三十九度乃至四十度以上の高熱に昇り頸、胸より初まつて全身に紅き發疹物が合併して麻疹と違つて皮膚の部分を殘さず全身が眞紅となり麻疹と異つて發

疹するも熱は下らずして、四五日で其熱が下り病勢も從て減退します而して其落屑麻疹の如く糠の様に取れるのもあるが皮膚が大きな皮ごととれます、特に手の掌足蹠に於て著しく大きくとれる此の病は二週間乃至二十日程かゝります而して腎臓炎、喉頭かたる、咽頭かたる等の合併症を起すことがあります、

注意 麻疹に對するのと大抵同一にて宜し。

### 幼兒の改良服

星 常子

幼兒の衣服を汚しますのは、裾の方丈で、上方は別にぬれもいたしませんのに、今までの様なきものではその度毎にすつかり着かへねはなりません寒い時などは、その爲に風を引く事があつて、

中々固るものです、これを防ぐために、私の友達か考へました改良服を、御紹介いたしませう

腰より上は、普通のきものでよろしいのです、丁度腰上の邊ぐらいの長さで、下は木綿巾二巾半位の太さの筒形を作り、その上の縁に、四處ほどボタンをつけ、上の方のきものへボタンをかける糸のわなをつけておくのですそれで、汚れた時には下の方だけ何度でもとりかへれば風も引かせる様な事はなく、大層便利です、下の方だけを澤山こしらへて置きますれば、上の方はホンの少しの間にあひます

附記 私の考では、上のきものも、從來の様に前を合せずつけひもをよして、被布の様にこしらへたらば一層よくなるであらうと思ひます